

# 知りたい！県庁

皆さんの質問にお答えします。

Q

介護保険施設には、どんな種類があるのでしょうか。

A

介護保険では、介護が必要になっても、できる限り在宅でサービスを受けながら、自立して生活していただくことを目指しています。しかし、寝たきりや痴ほうなどで常に介護を必要とされる方については、その方の状態に応じて、次の三種類の介護保険施設があります。



- ①介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)  
日常生活で常に介護を必要とし、自宅では介護が困難な高齢者が対象で、食事、入浴、排せつなどの介護や健康管理に関するサービスが受けられます。
- ②介護老人保健施設  
病状が安定し、リハビリを中心とした介護が必要な高齢者が対象で、医学的な管理のもとでの介護や機能訓練などのサービスが受けられます。
- ③介護療養型医療施設  
病状が安定し、長期の療養を必要とする高齢者が対象で、医療、看護、介護などのサービスが受けられます。

熊本県高齢保健福祉課 介護保険室事業推進班  
お問い合わせ先 ☎096-383-1111(内線7096、7097)  
FAX096-384-5052  
電子メール koureihofuku@pref.kumamoto.jp

Q

地球温暖化防止のために、県はどのような取り組みをしていますか。

A

熊本県では、平成十三年六月に策定した「熊本県地球温暖化防止行動計画」に沿って、市町村、事業者、県民の皆さんとのパートナーシップのもと、省エネ、省資源対策などの推進、環境にやさしい製品の購入、ごみの減量化・再利用、リサイクルなどにより、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を削減する取り組みを行っています。

特に、自動車などからの温室効果ガス排出量が全体の約三割を占めていることから、自動車やバイクのアイドリングストップの普及促進、都心循環バスをはじめとした公共交通機関の利便性向上などの対策を行っています。

また、県内百二十一名の「地球温暖化防止活動推進員」が、皆さんの住んでいる地域の中で、家庭でできる省エネ、省資源の取り組みや環境家計簿の普及啓発活動などを行っています。



熊本県環境政策課 環境立県推進室  
お問い合わせ先 ☎096-383-1111(内線7322)  
FAX096-383-0314  
電子メール kankyouseisaku@pref.kumamoto.jp

## くまもと物語

24

### 熊本のむかし話

その八

#### 火の山阿蘇

—阿蘇郡阿蘇町・長陽村・一の宮町—

大むかし、阿蘇谷には水がたまり、大きな湖となっていました。外輪山からこの様子を見た健甞龍命(阿蘇大明神)は、「この湖を干せば、よい田もでき、米もとれるのに」と考え、外輪山をけやぶることにしました。西の方を「えい」と力まかせにけりましたが、少しもくずれません。よく見てみると火口の壁が二重になっていていちばん厚いところだったようです。このことからここを二重ノ峠と呼んでいます。

今度は今の立野の方をひとけりすると、湖水がゴウゴウと流れはじめました。そのとき勢いよく流れ出した場所を、今は数鹿流滝とい



数鹿流滝

います。滝の名を「さか」といいます。すかるといふのは、すかると穴があいたからだとおっしゃる、また「すきまがある」のちぢまった言葉だとも言われています。

湖水は流れ出したものの、手野(一の宮町)の周辺にはまだ湖水がたまっていました。おかしいと思って見てみると、大ナマズが阿蘇谷に横たおしになり、自分の体で湖水をせきとめていました。そこで健甞龍命は、ナマズの鼻に鼻ぐり(鼻をとおすもの)を通し、大きな岩に結びつけました。その岩が今の鼻ぐり岩だと言われています。ナマズは苦しさのあまり大あばれしたので、健甞龍命は思いあまってナマズを上・中・下の三つに切ってしまいました。切られたナマズは湖水とともに、どっとおし流さ



れ、今の上益城郡嘉島町に流れ着きました。そこは、現在、鯨という地名になっています。また、その近くに六嘉という地名があります。これは流れてきたナマズを大きなカゴに入れたら六つにもなったことから、六荷と呼ばれていたものが、いつしか六嘉と書き表わすようになったと言われています。

出典「熊本の伝説」熊本県小学校教育研究会国語部会編

